

環境影響評価ソフト「DataFusion」の販売開始について

1. 株式会社ジャパンエナジー(本社:東京都港区虎ノ門二丁目、社長:高萩光紀)のコンピュータシステム関連子会社であるセントラル・コンピュータ・サービス株式会社(本社:東京都江東区亀戸六丁目、社長:山田修身、以下「CCS」)は、このたび、GIS(注)(地理情報システム)をベースにした各種属性情報の重ねあわせと三次元表示に加え、複数画像属性データ間の四則演算や重回帰分析から環境影響評価を定量的に試算する機能を備えた環境影響評価ソフト「DataFusion」を開発し、本年6月から販売を開始いたしました。

(注) 地理情報システム (Geographic Information System) とは、「地理的位置を手がかりに、位置に関する情報を持ったデータ(空間データ)を総合的に管理・加工し、視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能にする技術」のこと。

2. 本ソフトは、これまでCCSが科学環境分野において培ってきた情報処理技術をパッケージソフトとして集大成した製品で、GIS・衛星画像処理・数値シミュレーションといった要素技術を有機的に統合することで環境影響についての定量的な評価を一連の作業として行うことを可能としています。具体的には、大気拡散シミュレーションによって得られた汚染物質の濃度分布を衛星画像や地図画像という現実の世界に投影させることができるほか、例えば、周辺住民の疾病発生率や農作物の被害状況を推定するようなことも容易に実施できる等のメリットがあります。
3. 本ソフトの主な特長は次のとおりです。
 1. GISをベースにした各種属性情報の重ねあわせと高度三次元表示の可視化機能を装備。
 2. 複数画像属性データの四則演算や重回帰分析から環境影響の評価を定量的に試算する機能を装備。
 3. 環境問題を検討する際に重要な情報ソースとなる人工衛星からの画像データ利用機能を装備。
 4. 大気拡散シミュレーションの実行機能を装備。(同シミュレーション実行の際に必要な気象情報をCCSのホームページから無料でダウンロードできるサービスも同時に開始予定。)

※ 本ソフトの動作環境: DOS/Vパソコン(PC/AT互換機)、OS: Windows2000/98、CPU: Pentium III以上推奨、メモリ: 256MB以上推奨、HD容量: 20GB以上推奨
4. なお、CCSでは「DataFusion」の販売開始にあわせて、米国Terra衛星に搭載されたASTERセンサの観測データから作成した15mメッシュ標高データとオルソ画像(地形による歪みのない画像のこと)をセットにしたデータ販売事業も同時に開始いたします。

● (ご参考)

☞ CCSのウェブサイト<http://www.ccs.co.jp>